

～新型コロナ流行2年目を迎えて～

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いいたします。

令和2年は100年に一度といわれる新型コロナのパンデミックを経験する歴史的な年となりました。年が明けても首都圏を中心に新型コロナの流行には歯止めがかからず、愛媛県でも昨年末から連日10人を超える感染者の報告が続いています。今後の医療体制のひっ迫が気がかりです。一方で、1年前と違い、新しくワクチンが開発され、発症後の治療法も確立してきました。ワクチン接種開始まで、もうしばらく、みんなで感染防止対策を徹底していきましょう。

キッズケア・青い鳥では、新型コロナの感染者増加に伴う病児の受け入れ基準を決めています。現在は、病児が新型コロナ感染者、濃厚接触者、また同居家族に新型コロナの方がいる場合に限り入室をお断りしています。今後、愛媛県の警戒レベルが最も高いレベル3になった時点では、病原菌確定例以外の風邪の病児の受け入れを中止します。万一、今治市内で感染者が著しく増加したときには、市と協議のうえですべての感染症の病児の受け入れを中止することになります。

～親子で遊ぼう～

⑨ スリル満点 飛行機あそび

親が仰向けに寝て膝を曲げ、その上に子どもを乗せます。子どものお腹に足のうらをくっつけましょう。

子どもの様子を見ながら、膝の角度を調節したり、顔と顔を近づけるように体を丸めたりするなど、変化をつけて楽しみましょう。

体幹を鍛えて、バランス感覚を養ってくれる遊び。いつもと違う目線の高さに、子どもたちも大喜びです。



〈コロナ禍での冬場の換気と加湿について〉

新型コロナウイルスなどの呼吸器症状を引き起こすウイルスは、感染症対策として、換気と加湿が重要となります。換気は物理的に風を通すことでウイルスを室外に追い出し、加湿することで生存しにくい環境をつくりま

～換気方法～

換気のため窓を全開にすると室温が一気に低下するため、常時少しだけ開けて連続的に外気を取り入れます。

その時に対角線上の二か所の窓を開ける方法と、人がいない部屋の窓を開けて廊下などを經由して、少し暖まった新鮮な空気を人のいる部屋に入れる(二段換気)方法があります。



12月の感染症情報

12月もインフルエンザの発生はありませんでした。昨年9月から12月20日までの全国のインフルエンザの累積患者数は383人だったそうです。同期間の過去5年間の平均患者総数が約9万人ですので、全国的にも記録的な少なさだったようです。



12月のご利用状況

12月の利用延べ人数は32名、1日平均利用人数は1.5人でした。年齢別では、1歳児が20人(63%)が最も多く、次いで0歳児の5名(16%)の順でした。疾患別では19名(60%)が急性上気道炎で、その他には感染性胃腸炎、血管性紫斑病、尿路感染症のお子さんの入室がありました。小児科外来でも病原菌が特定できる感染症は少なく、溶連菌感染症、アデノウイルス感染症、水痘が散発的にみられる程度です。例年冬場に多いノロウイルスなどによる感染性胃腸炎の発生もほとんどありません。